

# 2-11

演題	多職種連携による歩行機能の改善
副題	～もう一度自分の足で歩く～

機能訓練
生活リハビリ

法人名	社会福祉法人 昴
施設名	ハートフルガーデン川和

発表者名 (職種)	吉田 尊子 看護師等
共同発表者	石田 千春
共同発表者	
共同発表者	
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	横浜市都筑区川和町 660 番
TEL	045-930-3888
FAX	045-930-3887
メールアドレス	kawawa.sv@subaru-fukushi.or.jp
URL	

今回の発表施設 またはサービスの 概要	当施設は本入所 86 名、短期入所 4 名の 90 名のユニット型特別養護老人ホームです。 2021 年 5 月より本入所者さまを対象に個別機能訓練を開始しています。
---------------------------	--

## 研究の目的、PR ポイント

特別養護老人ホーム入所中という生活環境でもかわり方次第で ADL の向上も目指せる。多職種の連携外部の専門職と連携することで新しい取り組みのきっかけになればと思う。

## 取り組んだ課題

退院後の歩行の低下に対して多職種で関わり歩行機能改善に向けてプランを実施したがそれだけでは ADL の改善は難しかった。家族カンファレンス行い医療訪問マッサージを導入したことで施設という環境でも歩行機能の改善した。

## 具体的な取り組み

対象者 A 様 女性 92 歳 要介護度 4  
現病歴 アルツハイマー型認知症  
2016 年 9 月 12 日入所  
ADL は短距離歩行可で食事は自己摂取ができ趣味活動でエレクトーン演奏が行える方。  
2021 年 11 月 9 日肺塞栓症、深部静脈血栓症で入院。同年 11 月 25 日退院。ADL の低下があり移動は車いす、全介助、支えあれば立位可、食事は半介助になり日中は傾眠傾向強くある状態だった。  
入院前の取り組み  
個物機能訓練プログラム  
・ 座位にて足踏み 10 回×3 セット  
・ 浴室まで歩行で移動する  
・ エレクトーン演奏を行なう  
退院後の取り組み  
・ 口腔体操  
・ トイレ移乗時手すりに捕まり立位保持 5 秒  
・ 傾眠傾向あり声掛けを多くする  
・ 配席を工夫し他利用者と関わりを多く持てるようにする。  
・ 状態観察を行ない精神科薬の減量を行なう。  
これらの取り組みと現状報告の為ご家族カンファレンスを行った。ご家族さまからは「立てなくなってトイレにいけるか心配です」とお話あり立位強化の為医療訪問マッサージ導入。  
2021 年 12 月 22 日より週 3 回 2 週間実施

内容・座位にてもも上げ運動 10 回

- ・ 蹴り出し運動、つま先上げ運動各 10 回
- ・ 立位後方軽介助+手すり保持にて 10 回

上記の運動実施し 2022 年 1 月より下肢の浮腫も軽減し、つかまり立ちも安定出来るレベルになり施術内容変更になる。

内容 ・ 立ち座り 10 回

- ・ 立位足踏み 50 歩 (膝屈曲 90 度まで)
- ・ 立位片足立ち 60 秒

プログラムが変更になったところより短距離歩行が出来るようになり入院前の個別機能訓練が実施できるまでに回復した。

## 活動の成果と評価

退院後早い段階で ADL と内服を評価し家族カンファレンス行い訪問マッサージ導入したことで短期間での歩行回復につながった又多職種で連携し情報共有行なったことで良い結果につながった。

## 今後の課題

個別機能訓練でも訪問マッサージと連携し簡単な運動を導入することで ADL の改善につなげていきたい。今後は訪問マッサージとも連携し個別機能訓練のレベルアップを目指していく。

## 参考資料など

参考文献 デイサービス機能訓練指導員の実践的教科書改訂 4 藤田健次 2018 年発行日総研